



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 課題研究Ⅰ（総合的な学習の時間）

（中学1年生）

テーマ 「生き方を探るⅠ」 サブテーマ 総合人間科の基礎を身につけよう！

- ・持続可能な開発のための教育（ESD）」との関わり  
6年間の総合人間科の学びに共通して必要な学びの方法（スキル）について基礎から身につけさせる。例えばインタビューの仕方、フィールドワーク前のアポイントメントの取り方、手紙の書き方、レポート執筆や口頭発表（プレゼンテーション）の方法などを身につける。

（中学2年生）

テーマ 「生命と環境Ⅰ」 サブテーマ 乗鞍・上高地から地球を見よう

- ・持続可能な開発のための教育（ESD）」との関わり  
林間学校を通して、「生命と環境」について興味関心を深め、研究の下地となる体験を行う。グループでテーマを選択し、研究やフィールドワークによって「生命と環境」のテーマのもとに自分の興味関心を掘り下げていく。また、フィールドワークの内容を地球規模の問題につなげ、個人研究を行い、収録の執筆・発表を行い、研究成果をまとめる。

（中学3年生）

テーマ 「国際理解と平和Ⅰ」 サブテーマ 過去を学び被害・加害のそれぞれの立場で考える

- ・持続可能な開発のための教育（ESD）」との関わり  
生命が脅かされることなく維持されるために不可欠な平和の大切さについて考える。その際、自分とそのまわりだけに範囲を限定するのではなく、世界的な視点や歴史的な視点を持つような生徒を育成する。

#### 課題研究Ⅱ（総合的な学習の時間）

（高校1年生）

スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、研究課題を3年間継続して行う最初の学年である。ものごとの本質を捉え、既存の問題と潜在的な問題の発見を行い、論理的・多角的に考える力を育成する。モンゴルと米国に設置したグローバル拠点を活用し探究活動を行う。具体的にはPBL(Problem Based Learning)の手法を用いる。高校1年生では、PBLの基礎を学ぶために設定された課題に対してPBL入門を行った。

（PBLの課題）

- ・発展途上国の貧困を打開する方策とは
- ・2020年東京オリンピックで日本はどんな「おもてなし」をするのか
- ・「同性婚」は社会に受け入れられるのか
- ・自分が生活する地域を外国人が訪問しやすくするために必要なことを探る
- ・リニア新幹線が私たちの地域や暮らしに与える影響
- ・現在から未来のエネルギー資源

（高校2年生）

テーマ 「国際理解と平和」

サブテーマ 自ら問いかけて考える沖縄

- ・「持続可能な開発のための教育」（ESD）」との関わり  
沖縄の諸問題を自分たちとつながりのあるものとして考える。沖縄とは何か、どのような課題を持っているのかについての研究を通して、現代の世界における「国際理解」はどうあるべきか、「平和」とは何かについて考える。

(高校3年生)

テーマ 「生き方を探る」 サブテーマ Carpe Diem

「持続可能な開発のための教育 (ESD)」 とのかかわり

現代的な課題から自分の進路に関わる課題を各自で設定し追及する。探究過程で専門家へのインタビューを行い、研究収録を仮説及び動機、結論、検証方法、検証したことの順でまとめ3年間の総括を行う。

## 学校設定教科・「自然と科学」「情報と社会」

概要)

全員必修の授業であり、高校1年生と2年生で実施している。高校1年生では、「自然と科学」、高校2年生では「情報と社会」を開講している。既存教科のみでは十分扱うことができない教科横断的な課題について考える授業である。既存の知識を関連させながら、答が一つに定まらない課題について考えることによって、単一の明確な答が用意されていない課題を扱う高等教育における学びへとつなげていく教科である。

学習方法)

高校1年生は「自然と科学」をテーマに、前期と後期に分け1単位の授業を行う。同様に、2年生では「地球市民学」をテーマに前期と後期に分けて授業を実施する。2年間で合計2単位の実施となる。

各講座とも、本校教員3人によるチームティーチングにより行われる。各講座には、総合コーディネーター・助言者の大学教員が付き、高大連携の授業を行う。2013年度の「自然と科学」では、名古屋大学博物館と連携して、前期は数学・化学・世界史、後期は物理・数学・公民の教科(科目)間連携で実施している。また、「情報と社会」では、名古屋大学教育学部、他大学と連携し、前期は、英語・国語、後期は、英語・家庭・体育の教科(科目)間連携で実践している。

学習形態は、1クラスをテーマ毎に3つに分けグループ学習を展開し、生徒が主体的に参加できる授業を心がけている。また、テーマによっては、合同授業も行い共通の理解を深め、他のグループとの交流も実施し、学習を深化させる取り組みも行っている。

## グローバルディスカッション

名古屋大学内に国内グローバル拠点を設置し、「地球的課題」に関して、大学教員や留学生TAと一緒に解決法を考えるプロジェクトである。本校以外の生徒の参加し「地球的課題」に関してインターネットや図書館などのICTを活用し「地球的課題」に関しての解決法を提案しプレゼンテーションを行う。また大学教員による小講義やフィードバックなども随時交えながら次世代のグローバルリーダーを育成する。今年度は8月24日と25日の2日間、名古屋大学で行った。2日間のプログラムはすべて英語で行われる。

参加生徒の感想)

・今までよりも英語を勉強したい、しなければならぬと思いました。その先にことを意識し、できることを継続していきたいと思いました。留学や海外への興味も広がりたくさんの仲間や先生方とあえてよかったです。

・普段学校で行っているディスカッションとは、また内容が異なり違う経験ができてよかったです。学校の方では、周りのレベルがすごく高いので、それに甘えてしまうことが多いのだが、今回は0から自分たちで作りに上げていくことができた。

・おもしろくないと感じるものは、それがおもしろくないからではなく、自分が興味を示さないことに原因があり、「勉強」というようにとらえるのではなく、自分の住んでいる世界のことを「学ぶ」という姿勢で取り組むことが大切だと感じた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ SGH の活動 ）